

精神医療圏における精神医療懇話会の状況

資料6

	開催日	場 所	主な議題
豊能	10月1日(火)	豊中市すこやかプラザ	(1) 豊能二次医療圏における精神科医療について (①地域の現状について ②依存症対応について) (2) 妊産婦のメンタルヘルスについて (①大阪府の現状について ②豊能医療圏の現状について)
三島	10月4日(金)	高槻市保健所	(1) 地域における妊産婦メンタルヘルスの支援体制の現状と課題について (2) 地域における精神科合併症の医療連携体制について
北河内	11月25日(月)	枚方市役所	(1) 北河内二次医療圏の概要について (2) 地域における妊産婦メンタルヘルスの支援について (3) 地域における精神科合併症の医療連携体制について
中河内	10月9日(水)	八尾市保健所	(1) 中河内二次医療圏における精神医療の現状について (2) 地域における精神科合併症の医療連携体制について (3) 地域における妊産婦メンタルヘルスの支援体制について (4) 依存症支援について
南河内	10月10日(木)	藤井寺保健所	(1) 妊産婦のメンタルヘルスについて (2) 精神科合併症の身体科と精神科の連携体制について (3) 依存症支援について
堺市	11月21日(木)	堺市役所	(1) 精神疾患医療の取組状況について (2) 妊産婦のメンタルヘルスについて (3) 依存症対策の今後の取組みについて
泉州	12月12日(木)	岸和田市立浪切ホール	(1) 泉州二次医療圏の医療機能表について (2) 夜間・休日 精神科合併症支援システムについて (3) NDB データから見る精神医療の状況について (4) 妊産婦のメンタルヘルスについて
大阪市	11月18日(月)	大阪市役所	(1) 地域連携拠点医療機関について (2) 夜間及び休日における精神科救急医療の状況について (3) 依存症対策の状況について (4) 認知症施策の現況について (5) 妊産婦のメンタルヘルスについて

<p><治療・服薬></p>	<p>○保健センター等は診療所につなぐことが多いが、予約制のところが多く、タイムリーに診ることができない。 ○精神科病院は、予約なくすぐに対応できることが多いが、入院が必要な状況でないとは来院しない。 ○服薬に対して不安に思う妊産婦が多く、治療につながらない。また、万が一事故があったらと思うと出しにくい。 ○かかりつけ医が「精神科の薬は飲まない方がいい」と言ってしまうことがある。 ○精神科全体として、妊産婦に対する対応が十分標準化されていない。 ○精神科医師の関心が上がってこない。</p>
<p><支援></p>	<p>○メンタル面のフォローと同時に生活上の問題の支援が必要。 ○家族全体のサポート体制が必要。 ○社会資源が貧弱。医療や薬だけではなく、地域のマンパワーが必要。 ○まずは社会資源を活用し、そこに精神科が連携する支援が必要。 ○多職種連携による切れ目のない支援が必要だが、マンパワーの確保が難しい。</p>
<p><連携体制></p>	<p>○総合病院では、院内は連携できているが、地域との連携がシステム化されていない。 ○精神科 Dr の指示で訪問看護に入る場合、必要な情報を精神科 Dr に伝えても、産科 Dr には伝わらない。 ○精神科と産科に薬剤師も入った連携があればよい。 ○子どもの口腔ケアの様子で母親のメンタル面に注意が必要なことがわかることもある。医療連携のシステムが必要。 ○精神科としてコミットしたいが、情報が入ってこない。 ○府保健所と市町村保健センターの連携が必要。 ○保健所や市が入って問題を整理し、つないだり、中断後のフォローをすることが必要。</p>
<p><その他></p>	<p>○メンタルヘルスとなると精神科だけでは対応できない。対応できる人材養成が必要。 ○経験年数に関係なく対応できるようなツールが必要。 ○情報収集とコーディネートをしてくれる人がいれば対応できる。</p>

【懇話会から出された課題の対応策】

「妊産婦こころの相談センター事業」において、以下の取り組みを実施

- ① 服薬についての考え方が統一されていない ⇒ 「妊産婦メンタルヘルス対応簡易マニュアル」を作成し、府内産科・精神科に配布
- ② 地域における支援システムが構築されていない ⇒ 「地域支援体制整備事業（事例検討会）」をモデル実施